



校長室だより



「家庭で何とかしてください」と言いたいわけではないんです

遅刻や欠席の多い子どもは、どうしても家庭が不安定になっていることが多いです。朝、家族みんなが起きることができなかつたり、下の子どもたちがたくさんいてその世話に四苦八苦していたり、仕事が夜遅くなってどうしても寝る時刻が遅くなつたりとさまざまな困難を抱えている家庭が多く存在します。そのお家の方々に「何とかしてください」と学校から願うこともあるのですが、それ以上に「家庭の手助けをしたい」という思いも強く持っています。学校は敷居が高いとよく言われますが、できれば「こんなことをしてほしい」という思いを届けてほしいと思っています。もちろん、学校にもできることとできないことがあります。できないときには正直に「できません」と言わせていただきますが、できそうなことはなんとかお手伝いしていきたいと考えています。例えば、「学校で声をかけてください」「お迎えに来てください」「朝のモーニングコールをしてください」など他にも考えたらいろいろな手助けができるのではないかと考えています。

しかられることでしか次に進めない

あるカウンセラーをしている方と話をしているときにうかがった言葉です。「しかられることでしか次に進めない」です。教師としては思い当たるふしがあります。それはわざと叱られるような発言や行動をしてしまう児童と接して対応に悩まされてきた経験がだれにでもあるからです。お家でもこのような言動をする子どもは多いように思います。ではなぜそのような行動をしてしまうのでしょうか。要因はいくつかあるそうですが、「もっとかまってほしい」「自分を見てほしい」という場合が多いそうです。その指標の一つに「大人が子どもとの約束をどこまで守っているか」です。約束を何度も守ってくれない経験をしている子どもは大人への信頼がなくなってきます。そして大人への不信がつっていき、このような「叱られることでしか次に進めない」マインドや行動になってしまいます。

一方で、大人が約束を守ってくれる、守れなくてもその説明だったり次の機会ですら守ったりする経験を積み重ねると大人への信頼が大きくなっていきます。すると学校、地域の大人に対しても積極的に関わることができるようになり、結果としてコミュニケーション能力が高まり、学力も高まることにつながるそうです。

この数日後、本校の仲本スクールカウンセラーから同じような話をききました。「約束を守ること」が子どもの対応で必要だという話になった時、「それは本人にとって不利になることだとしても約束したことが守られることが安定につながる」のだそうです。なるほど。具体的にいうと、ゲームやスマホの時間を9時までと決めたとして、その約束が守られないことの方が子どもと親の関係性が崩れるというのです。子どもはゲームやスマホをだらだら続けてしまいがちで親が「やめなさい」という小言が増えていきます。すると「なし崩し的」に約束が破られてしまいます。約束が守られないと信頼関係が崩れてしまうのです。

9時までと決めたら子どもが何を言っても暴れても、約束を毅然とした態度で守ることが正しい親子関係を築くためには必要なのだそうです。